キラリ十和田人

―第19回―

澤口亜古さん

誰かのためを想って、踊りたい
花道を駆け抜ける馬のように

PROFILE

十和田市出身。よさこいチーム「馬花道」（對馬秀代表）のチームリーダーとして、平成16年のチーム発足から運営、曲の制作、踊りの指導などを行う。チーム名「馬花道」の名付け親でもある。踊り手としてセンターを務め、チームを引っ張る存在。趣味は読書、美術鑑賞。

十和田市を代表するよさこいチーム「馬花道」。力強い踊りと華麗な衣装チェンジは観客の目を魅了する。センターで踊るのは、チームリーダーを務める澤口亜古さんだ。

澤口さんがよさこいを始めたきっかけは、十和田市で行われた第1回よさこい夢まつりで司会を務めたとき、目の前で見たよさこいに感動したこと。衣装の早替え、ダンス要素を含んだパフォーマンス力の強い踊り―自分もこのようなよさこいを踊りたいと思った。

馬花道が発足してチームリーダーとなった当時は「踊ること、表現することがとにかく楽しかった」と、振り返る。

発足から2年後、念願の札幌よさこいソーラン祭りに初出場を遂げる。よさこいの聖地と言われる大通り公園でのステージに立ったとき「ようやくここまで来た」と、想いが込み上げた。さらに馬花道は新人賞を獲得。日本一の大会で実力を認められたのだ。以降、数々の大会で入賞する。

しかし、その後澤口さんはスランプに陥る。納得する踊りができない、実力が認められない。踊りに迷いが出る。そんなとき、振り付けの先生に「自分のために踊りすぎだ」と、指摘された。

その言葉で我に返った。自分が楽しいから、すべて自分のために踊っていたことに気付いた。よさこいに対する想いが変わった。

―誰かのために、踊りたい。

「十和田市のため、観客の皆さんのため、復興支援のため、馬花道のメンバーのため。誰かのためを想いながら、踊りたい。自分の踊りが力になればうれしい」と、話す眼差しは、前を見据える。

センターで踊り、わたしについてきて！と、背中で語る。安心して背中を預けられる頼もしい仲間たち。「みんながいたから、今のわたしがある。本当に、大好き。これからも一緒に踊っていきたい」と、チームへの思いは募る。

また、「よさこいの輪が広がってほしい。次世代の育成に力を入れていきたい」と、意気込む。

9月30日に本市で開催されるよさこい夢まつりで、馬花道は3年ぶりの新曲「道」を初披露する。

「官庁街通りをテーマにした新曲を十和田市で初披露できるのは感慨深い。昔、この道を駆け抜けた馬のように、わたしたちも精一杯踊ります」と、力強く語った。

広報とわだ　平成24年９月１日号　第119号
編集発行　十和田市総務部総務課
〒034-8615　十和田市西十二番町６番１号
☎0176⑤6702
「広報とわだ」は再生紙を使用しています。
「広報とわだ」バックナンバーはホームページをご覧ください。

地域の安全・安心に関する情報を配信！
“駒らん情報メール”
携帯電話でＱＲコードを読み取るか、次のメールアドレスに空メールを送信してください。
▶アドレス　anzenjoho@info-towada.jp